特別版

できる®アイビス

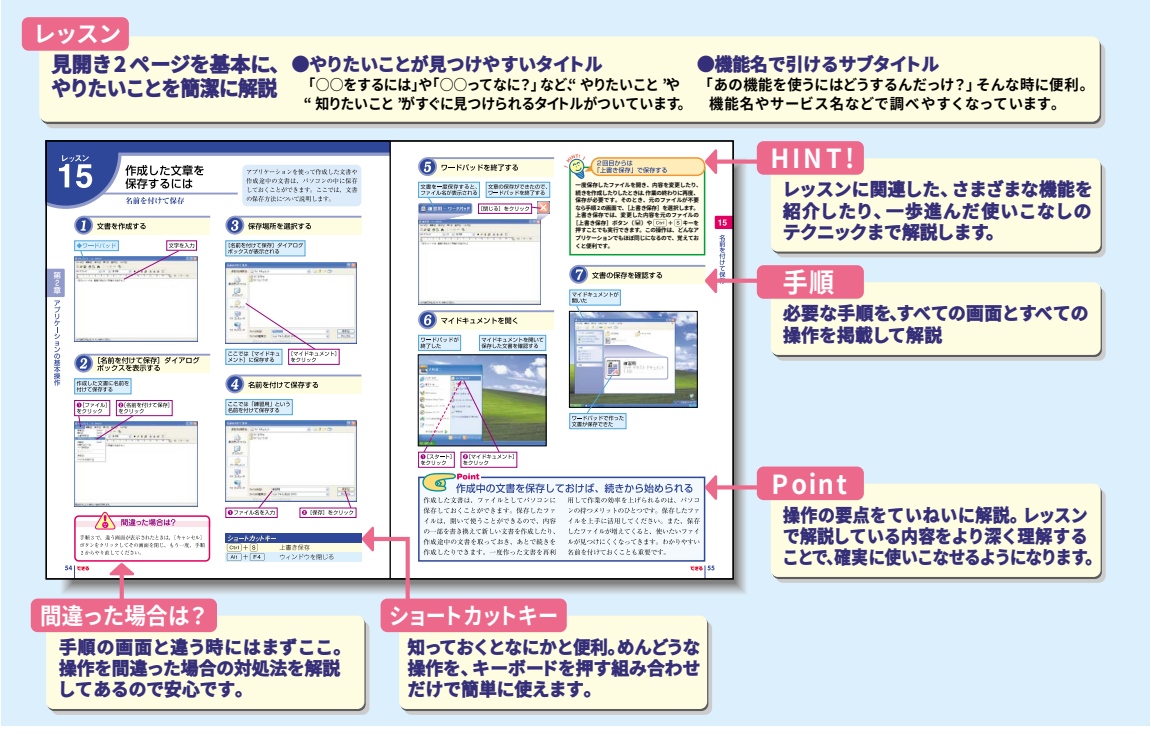
iVIS HR10

映像編集編

清水理史＆できるシリーズ編集部

インプレスジャパン

本書の読み方



●用語の使い方

本文中では「iVIS HR10」のことを「iVIS」または「アイビス」と記述しています。また、本文中で使用している用語は、基本的に実際の画面に表示される名称に則っています。

●本書の前提

本書の各レッスンは、キヤノン株式会社製のハイビジョンDVDカメラ「iVIS HR10」を前提に画面を再現しています。また、本書では、Windows XP Home Edition/Professionalがインストールされているパソコンを前提に画面を再現しています。Windows Vistaの環境でも本書をお読みいただくことは可能ですが、一部画面や操作が異なることがあります。また、DVD-R（片面２層式対応）、DVD-RW 、DVD+R（片面２層式対応）、DVD+RW、CD-R、CD-RWへの書き込みに対応したパソコンを使用しています。

●本書に掲載されている情報について

本書に掲載されている情報は、2007年7月現在のものです。本書の発行後に、情報が変更されることもあります。

「できる」、「できるシリーズ」は、株式会社インプレスジャパンの登録商標です。
アイビス、iVISは、キヤノン株式会社の商標です。
Corel、Corelロゴ、Ulead、Uleadロゴ、Ulead DVD MovieWriter、InterVideo、InterVideoロゴ、WinDVDは、Corel Corporationおよびその子会社の商標または登録商標です。
Microsoft、Windowsは、米国Microsoft Corporationの登録商標です。
その他、本文中の製品名およびサービス名は、一般に各開発メーカーおよびサービス提供元の商標または登録商標です。
なお、本文中には™および®マークは明記していません。

Copyright © 2007 Masashi Shimizu and Impress Japan Corporation. All rights reserved.
本書の内容はすべて、著作権法によって保護されています。著者および発行者の許可を得ず、転載、複写、複製等の利用はできません。

まえがき

一生の思い出として大切にしたい記念日、あとから振り返ったときに成長の過程がうかがえるような行事やイベントなど、人生にはその一瞬を切り取って残しておきたいシーンがいくつもあります。そんなシーンをiVIS（アイビス）で撮影できたとしたら、そのまま撮りっぱなしにしておくのは、非常にもったいないことです。

iVISならハイビジョン画質で撮影した映像も手軽にパソコンに取り込んで編集することができます。お気に入りのシーンだけをつないだり、シーンの切り替わりを凝った効果で演出してみたり、映像に文字や音楽を付け加えたりと、映像を思い通りに編集して楽しんでみましょう。

映像の編集と言うと、難しいイメージがあるかもしれませんが、iVIS HR10に付属している「Corel Applications」ならわずか数ステップで映像の編集ができてしまいます。映像をDVDに保存して、ほかの人に渡すことなどもできますので、この機会に映像編集をはじめてみることをおすすめします。

2007年8月 清水理史

できるアイビス　iVIS HR10 映像編集編

1 映像編集の流れを知ろう　＜DVDに書き込むまでの流れ＞ ―― 2
2 iVISからパソコンに映像を取り込むには　＜GuideMenu＞ ―― 4
3 取り込んだ映像を編集するには　＜DVD MovieWriter SE＞ ―― 8
4 映像内の不要な部分を削除するには　＜ビデオのカット編集＞ ―― 10
5 映像に効果を追加するには　＜ビデオをエンハンス＞ ―― 14
6 DVDのメニューを作成するには　＜メニューの編集＞ ―― 18
7 完成した映像をDVDに書き込むには　＜書き込み＞ ―― 22

レッスン
1

映像編集の流れを知ろう

DVDに書き込むまでの流れ

iVISで撮影した映像は、パソコンで編集したり、DVDに書き込んだりして楽しむことができます。まずは、全体の作業の流れを確認してみましょう。

映像編集は4つのステップに分かれている

映像編集は大きく分けて4つのステップに分かれています。最初のステップ1で映像をパソコンに取り込み、そのあとのステップ2で映像の不要な部分などを編集。ステップ3でDVDのメニューを作成し、最後のステップ4で完成した映像をDVDに書き込みます。

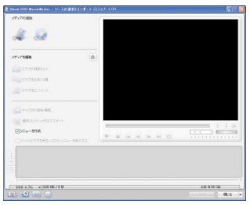
ステップ1

iVISをパソコンに接続し、撮影した映像を取り込みます。iVISとパソコンの接続には、付属のUSBケーブルを利用します。

▷▷レッスン❷参考

ステップ2

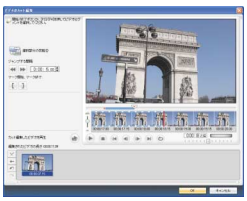
●DVD MovieWriter SEの起動



映像編集やDVDの作成には付属の「DVD MovieWriter SE」というソフトを使います。起動などの基本操作を確認しましょう。

▷▷レッスン❸参考

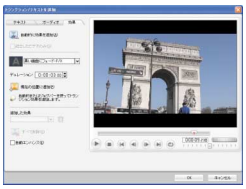
●映像の不要な部分を編集する



映像に不要なシーンが含まれている場合は、カットなどの作業をして、必要なシーンだけの映像に編集します。

▷▷レッスン❹参考

●映像にさまざまな効果を追加する



映像が切り替わる部分に効果を設定してスムーズに映像をつなげたり、映像にコメントを挿入したりして、オリジナルの映像を作成します。

▷▷レッスン❺参考

HINT!

ハイビジョン画質で撮影しておこう

iVISで映像を撮影するときは、高画質なハイビジョン画質のHDモードで撮影するようにしましょう。HDモードで撮影した映像であれば、高い画質のまま映像を保存しておくことができるうえ、記録容量の問題で1枚のDVDに保存しきれない場合でも、あとから一般的な画質のSD画質に変換することができます。一方、SDモードの映像は、容量が小さく保存には適していますが、HDモードに比べると画質が劣るうえ、あとからHD画質に変換することもできません。

HINT!

iVISホームページで最新情報を入手しよう

iVISで利用できるアクセサリーの情報やiVISに関するサポート情報などは、インターネット上のホームページで参照することができます。さまざまな情報を入手できますので、定期的に確認してみると良いでしょう。

▼ キヤノン iVISホームページ
http://canon.jp/ivis/

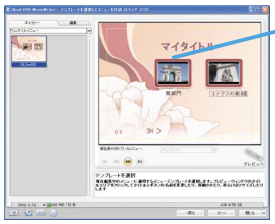
HINT!

すべての作業を一度にやる必要はない

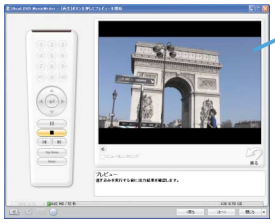
ここで紹介したステップ1からステップ4までの作業は、一度に行う必要はありません。今日はステップ1の取り込みだけにして、翌日以降にステップ2や3でじっくりと編集をし、最終的に気に入った映像ができたらステップ4といったように、ステップごとに日を分けて作業すると良いでしょう。

ステップ3

DVDに書き込んだときに表示されるメニューを作成します。1枚のDVDに複数の映像を保存した場合などは、メニューを利用することでタイトルなどから再生する映像を手軽に選択できます。



取り込んだ映像をDVDのメニューとして作成



作成したメニューをDVDメディアに書き込む前に確認する

▷▷レッスン❻参考

ステップ4

編集した映像と作成したメニューを合わせてDVDに保存します。作成したDVDは、一般的なDVDビデオと同じ形式となりますので、家庭用のDVDプレーヤーで手軽に再生できます。

編集した映像と作成したメニューをDVDメディアに書き込む

▷▷レッスン❼参考

Point

わずか4つのステップで映像編集を楽しめる

「映像編集」などと聞くと、難しいのではないかと尻込みしてしまう人も少なくないのではないでしょうか？　しかし、iVISに付属している映像編集ソフトを利用すれば、取り込み、編集、メニュー作成、書き込みという、わずか4つのステップで撮影した映像を好みの映像に仕上げてDVDに保存することができます。はじめてでもかんたんにできるうえ、素材となる映像を自分の好みに仕上げていく楽しさを味わうことができるわけです。単に映像を保存するだけでなく、映像を“創る”楽しさを味わってみましょう。

レッスン
2

iVISからパソコンに映像を取り込むには

GuideMenu

iVISで撮影した映像をパソコンに取り込みましょう。USBケーブルを使ってiVISをパソコンにつなげば、手軽に映像を取り込むことができます。

iVISから映像をパソコンに取り込むには

iVISで撮影したハイビジョン映像をパソコンに取り込むには、「Corel Applications」というソフトウェアを利用します。iVISに付属しているCD-ROMに収録されていますので、あらかじめパソコンにインストールしておきましょう。

1 Corel GuideMenu アプリケーションを確認する

あらかじめiVIS HR10に付属している「Corel Application Disc」から「Corel Applications」をインストールしておく

通知領域に［GuideMenu］アイコンが表示されていることを確認

注意 あらかじめ、iVIS HR10に付属している使用説明書を参考に、取り込みたい映像が録画された8cm DVDをファイナライズしてください

2 iVISとパソコンを接続する

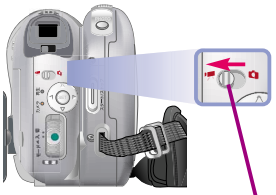
取り込みたい映像が録画された8cm DVDをiVISにセットしておく

❶USBケーブルをパソコンのUSBポートに接続

❷iVISのUSB接続端子に、USBケーブルを接続

3 iVISをカメラモードにする

iVISを動画撮影できるようにして電源を入れる



❶iVISの動画/静止画切り換えスイッチを 側にスライド

❷iVISの電源スイッチにある緑色のボタンを押しながら［入］側にスライド

［カメラ］ランプが点灯し、カメラモードになった

HINT!

通知領域に［GuideMenu］アイコンが表示されていないときは

通知領域のアイコンは、あまり使用しないと自動的に隠されてしまいます。もしも、［GuideMenu］アイコンが表示されていないときは、［隠れているインジケータを表示］（ ）をクリックして隠されていないかを確認しましょう。それでもアイコンが表示されないときは、インストールされていない可能性があります。付属のCD-ROMからインストールしておきましょう。

4 iVISを再生モードにする

iVISの電源スイッチを下にスライド

［再生］ランプが点灯し、再生モードになった

5 iVISが認識された

しばらくするとバルーンが表示され、iVISが認識された

6 GuideMenuが表示された

パソコンにiVISが接続されると、自動的に［GuideMenu］が表示される

◆GuideMenu
Corel Applicationsを起動するためのメニュー。いろいろなアプリケーションをかんたんに起動できる

7 映像の保存を開始する

ここではiVISで撮影した映像をパソコンに保存する

［パソコンに保存］をクリック

HINT!

ハイビジョン映像のままでDVDにコピーするには

映像の編集やメニュー作成などが必要ないときは、以下のようにiVISに保存されている映像を、パソコンのドライブにセットしたDVDに直接保存することができます。この場合、映像の変換は行われないため、HD画質の映像はハイビジョン品質のままDVDに保存できますが、作成したDVDは市販のDVDプレーヤーなどでは再生できません。友人に渡したいときなど、市販のDVDプレーヤーでも再生したいときは本書を参考にDVD MovieWriter SEを使ってDVD形式として書き込みましょう。

パソコンのドライブに12cmのDVD-Rまたは、DVD-RWをセットしておく

❶手順6で［ディスクにコピー］をクリック

［ターゲットデバイス］に書き込み先のドライブ名が表示されていることを確認する

❷［次へ］をクリック

❸［開始］をクリック

コピーがはじまる

コピーが完了すると［ディスクのコピーが完了しました。］と表示される

❹［OK］をクリック

間違った場合は?

手順6で間違って［GuideMenu］を閉じてしまったときは、デスクトップのアイコンをダブルクリックしてメニューを表示し直します。

次のページに続く

8 映像の保存先を指定する

［パソコンに保存］画面が表示された

初期状態では「マイドキュメント」の中にある「マイビデオ」フォルダに保存される

ここをクリックすると、保存先を選択できる

［次へ］をクリック

9 保存する映像を確認する

iVISにセットされている8cm DVDに保存されている映像が表示された

チェックマークが付いている映像が保存される

［開始］をクリック

映像の保存が開始された

ここに取り込みの進捗状況が表示される

保存が完了するまでしばらく待つ

HINT! ハードディスクの空き容量に気をつけよう

ハイビジョン映像は高画質な反面、映像のファイル容量が大きくなりがちです。このため、映像をパソコンに取り込むときは、パソコンのハードディスクの空き容量に注意する必要があります。HDモード（XP+モード）で撮影した映像の場合、約30分で2.6GB程度の容量になるので、あらかじめハードディスクの空き容量が3GB以上あることを確認しておきましょう。

10 映像の保存が完了した

［ファイルの保存が完了しました］と表示され、取り込みが完了した

［OK］をクリック

11 GuideMenuを閉じる

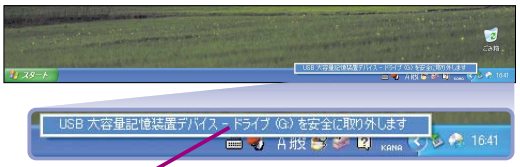
［GuideMenu］画面が表示され、手順6に戻った

ここをクリック

12 iVISを安全に取り外せるようにする

［GuideMenu］画面が閉じ、デスクトップが表示された

iVISをパソコンから取り外せるようにする



❶［ハードウェアの安全な取り外し］をクリック

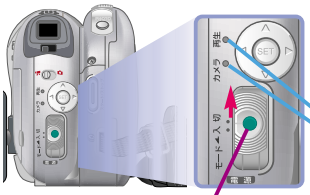
❷［USB大容量記憶装置デバイス - ドライブ（G:）］をクリック

パソコンによって表示される内容が異なる

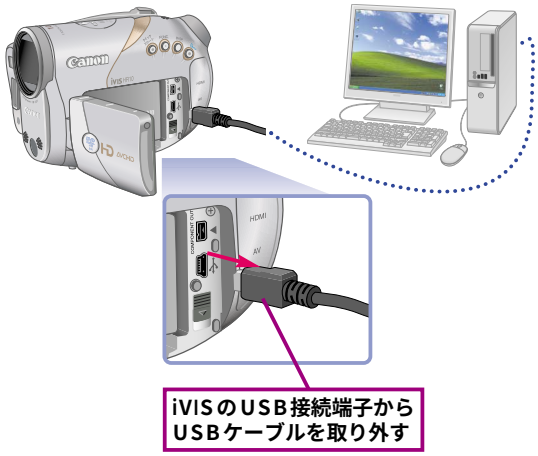
間違った場合は?

手順9で間違って、保存を途中でキャンセルしてしまった場合は、手順1から、もう一度、操作をやり直します。

13 iVISの電源をオフにする



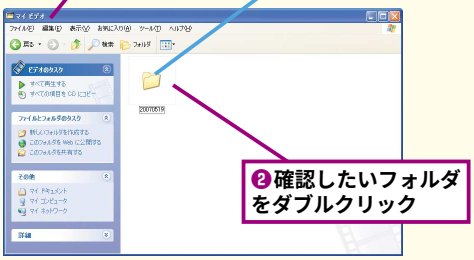
14 パソコンからiVISを取り外す

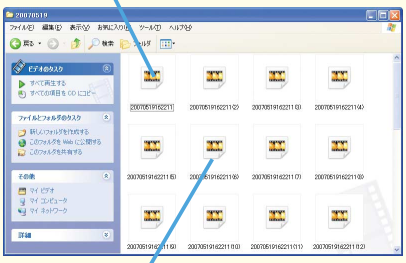


HINT! 取り込んだ映像を確認するには

パソコンに取り込んだ映像は、［マイドキュメント］の中にある［マイビデオ］フォルダに保存されます。以下の手順を参考にファイルを参照すると良いでしょう。なお、ファイルを再生するには、「Corel Application Disc」に含まれる「InterVideo WinDVD SE」というソフトウェアが必要です。再生できないときはインストールしておきましょう。

取り込んだ映像は、手順7で特になにも変更しなければ「マイドキュメント」の中にある「マイビデオ」フォルダに保存される





Point つなぐだけでかんたんに映像を取り込める

iVISで撮影した映像を編集するには、まずパソコンに映像を取り込む必要があります。取り込みと言っても、作業はかんたんです。USBケーブルでパソコンとiVISを接続すると、自動的に取り込みに使うアプリケーション［GuideMenu］が起動しますので、メニューからやりたい操作を選ぶだけです。これでiVISにセットされている8cm DVDから、パソコンのハードディスクへと映像がコピーされます。取り込みだけでなく、パソコンにセットしたDVDへのコピーなどがかんたんにできますので、iVISで撮影した映像の活用に便利です。

レッスン 3

取り込んだ映像を編集するには

DVD MovieWriter SE

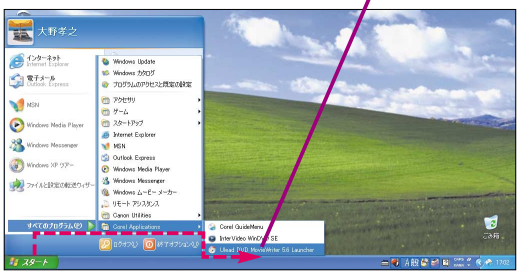
パソコンに取り込んだ映像を編集するには、［DVD MovieWriter SE］というアプリケーションを利用します。起動方法などの基本操作を確認しておきましょう。

できるアイビス

DVD MovieWriter SEを起動する

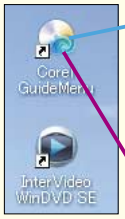
1 DVD MovieWriter SEを起動する

［スタート］－［すべてのプログラム］－［Corel Applications］－［Ulead DVD MovieWriter 5.6 Launcher］の順にクリック



HINT! GuideMenuをかんたんに表示するには

［GuideMenu］はスタートメニューからだけでなく、デスクトップ上にあるショートカットアイコンからも起動することができます。［GuideMenu］をかんたんに表示したいときは、デスクトップにある［Corel GuideMenu］をダブルクリックして起動しましょう。



Corel Applicationsをインストールするとデスクトップに［Corel GuideMenu］のショートカットが自動的に作成される

［Corel GuideMenu］をダブルクリック

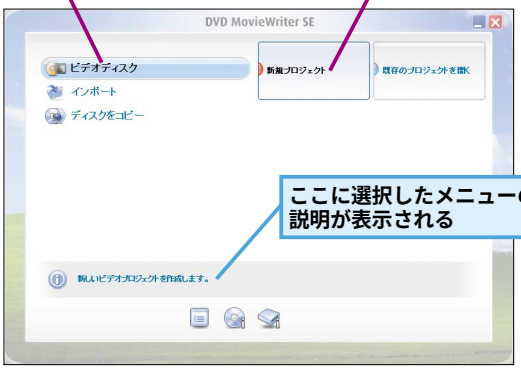
［GuideMenu］画面が表示された

2 新しいビデオプロジェクトを作成する

［DVD MovieWriter SE］のLauncher画面が表示された

❶［ビデオディスク］をクリック

❷［新規プロジェクト］をクリック

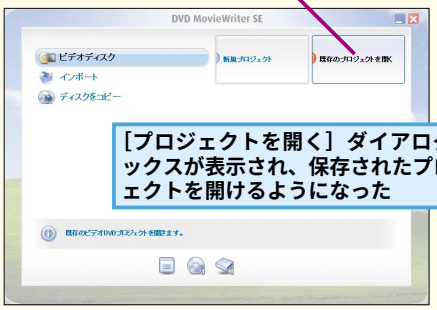


ここに選択したメニューの説明が表示される

HINT! 保存したプロジェクトを開くには

以前に保存したビデオプロジェクトを開き、編集作業の続きをしたいときなどは、手順2で［既存のプロジェクトを開く］を選択し、保存したビデオプロジェクトを読み込みます。このようにすれば、編集作業を複数日に分けて少しずつ行えます。

手順2で［既存のプロジェクトを開く］をクリック



［プロジェクトを開く］ダイアログボックスが表示され、保存されたプロジェクトを開けるようになった

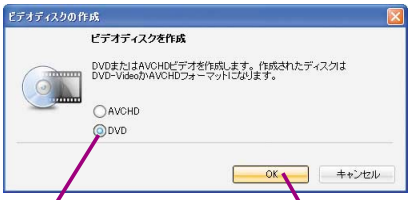
HINT! 作成するディスクのフォーマットってなに？

手順3で選択しているフォーマットは映像をどのような形式でディスクに保存するかを決める設定です。一般的なDVDプレーヤーなどで再生したい場合は［DVD］を、HDモードで撮影した映像の品質を落とさずに、ハイビジョンのまま保存したいときは［AVCHD］を選択します。「AVCHD」フォーマットで作成したディスクはAVCHD規格に対応した機器でのみ再生できます。対応していない機器にこれらのディスクを入れた場合、ディスクが取り出せなくなることがあります。注意しましょう。

3 作成するDVDのフォーマットを選択する

［ビデオディスクの作成］ダイアログボックスが表示された

DVDのフォーマットを選択する



❶［DVD］をクリック

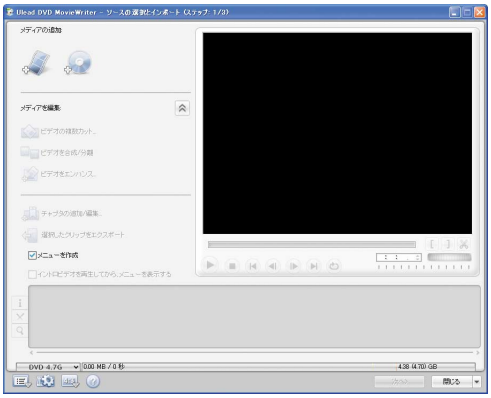
❷［OK］をクリック

HINT! ビデオプロジェクトってなに？

DVD MovieWriter SEでは、編集対象のビデオやビデオに追加する画像や音楽などの素材をひとまとまりの単位として管理します。この単位のことをビデオプロジェクトと呼びます。DVD MovieWriter SEで編集したビデオは、ビデオプロジェクトごとに保存され管理されます。

4 新しいビデオプロジェクトが作成された

DVD MovieWriter SEの画面が表示された



間違った場合は？

手順3で間違ったフォーマットを選択してしまったときは、手順4で画面左下にあるフォーマット名をクリックして設定を変更します。

Point DVDのフォーマットを間違えないようにしよう

DVD MovieWriter SEは、パソコンに取り込んだ映像の編集から、DVDへの書き込みといった一連の操作を行うためのアプリケーションです。このため、起動後にまず最初にしなければならない設定がフォーマットの選択になります。最終的にDVDに保存するときに、どのような形式でデータを書き込むのかを決めることで、はじめて編集などの実質的な作業が可能になります。iVISは美しいHDモード（AVCHD）で映像を撮影できるのが特徴ですが、この映像を再生できる環境はまだ限られます。このため、本書ではDVDを選択し、一般的な環境で再生できる形式で映像を編集します。

映像内の不要な部分を削除するには

ビデオのカット編集

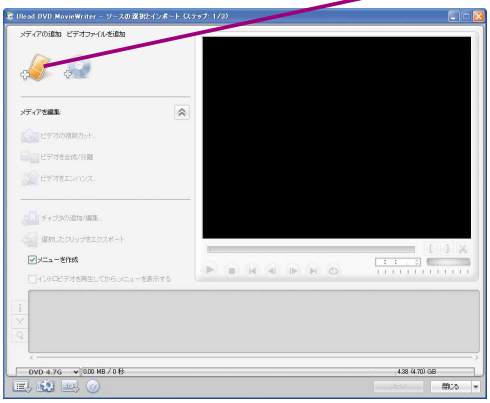
それでは実際に映像を編集してみましょう。ここでは映像の始点と終点を指定して、映像に含まれる必要なシーンを取り出す方法を紹介します。

保存した映像をDVD MovieWriter SEに追加する

1 保存した映像をプロジェクトに追加する

レッスン❷で保存した映像をプロジェクトに追加する

［ビデオファイルを追加］をクリック

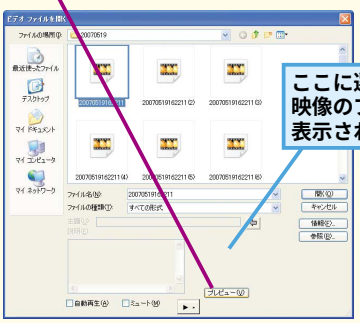


HINT!

追加する映像を確認するには

DVD MovieWriter SEでは、追加する映像を事前に確認することができます。手順2の画面でファイルを指定してから、以下のように［プレビュー］ボタンをクリックすることで、プレビュー画面で映像の内容を確認できます。

手順2で［プレビュー］をクリック



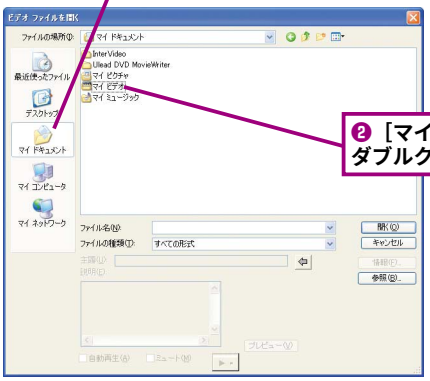
ここに選択している映像のプレビューが表示される

2 追加する映像を選択する

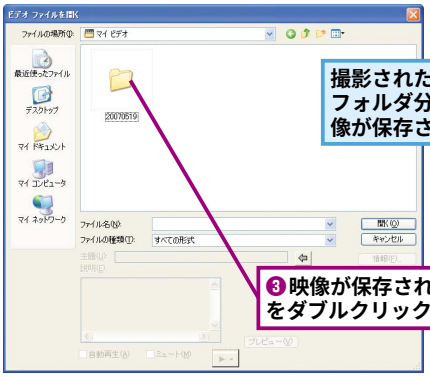
［ビデオファイルを開く］ダイアログボックスが表示された

［マイビデオ］に保存された映像を追加する

❶［マイドキュメント］をクリック



❷［マイビデオ］をダブルクリック



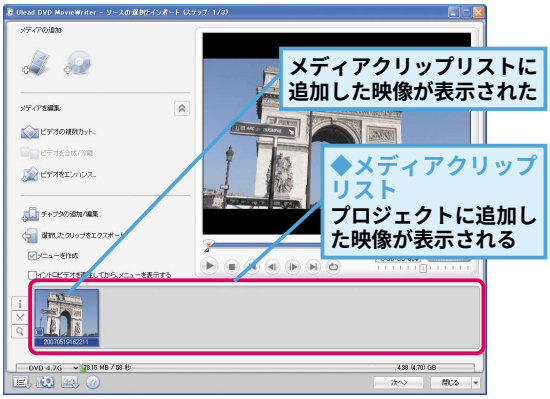
撮影された日付ごとにフォルダ分けされ、映像が保存されている

❸映像が保存されたフォルダをダブルクリック

❹追加したい映像をクリック

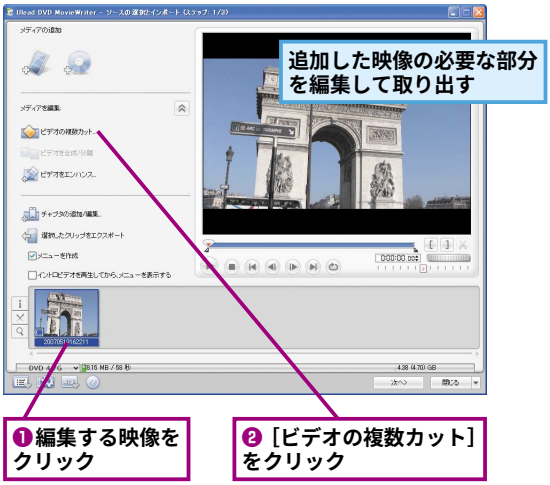
❺［開く］をクリック

3 映像が追加された



追加した映像の必要な部分を取り出す

4 ［ビデオのカット編集］画面を表示する



間違った場合は？

手順３で間違った映像を追加してしまったときは、映像をクリックして選択し、左側にある［削除］（✕）をクリックして削除します。

HINT! マーク開始とマーク終了ってなに？

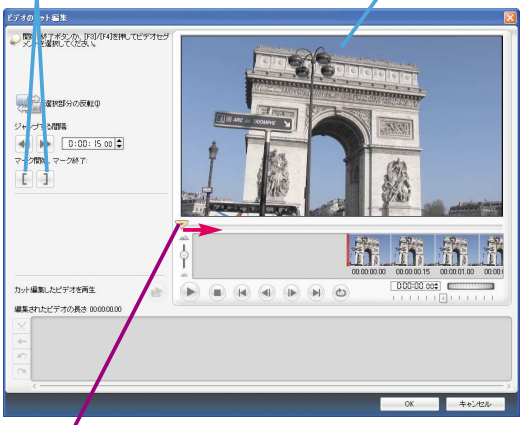
マーク開始とマーク終了とは、映像の特定の範囲を指定するための機能です。マーク開始で映像の始まりとなる位置を指定し、マーク終了で終わりとなる位置を指定します。このようにマークで特定の範囲を指定することにより、その範囲の映像を取り出すなどの編集ができます。

5 マーク開始を指定する

［ビデオのカット編集］画面が表示された

［マーク開始］と［マーク終了］で、必要な部分を指定する

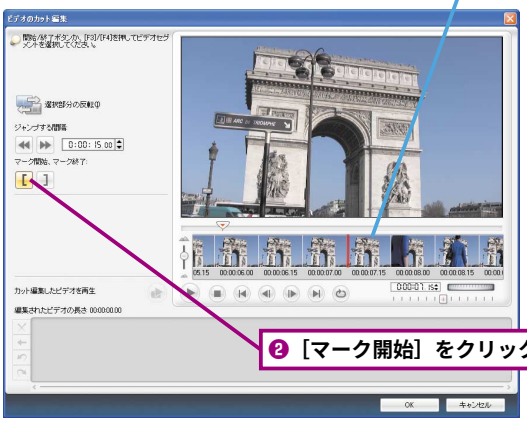
ここに表示される映像を確認しながら、ジョグバーをドラッグして映像の頭出しをする



❶必要な映像の先頭までジョグバーをドラッグ

◆ジョグバー

映像の各コマが表示される



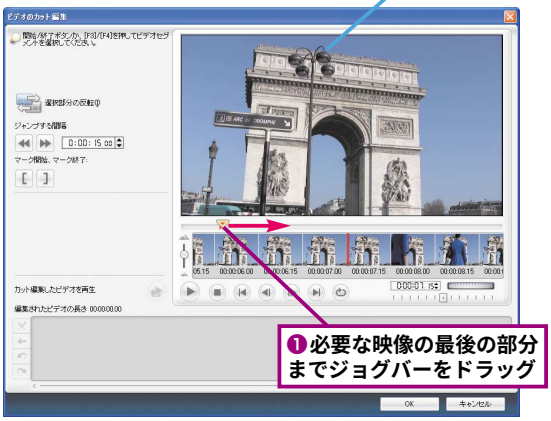
❷［マーク開始］をクリック

次のページに続く

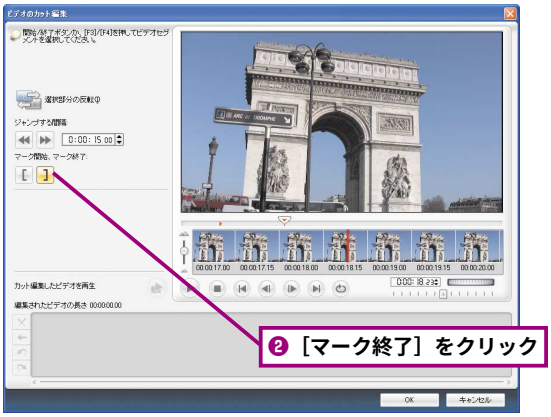
6 マーク終了を指定する

マーク開始を表わす赤い印が移動した

ここに表示される映像を確認しながら、ジョグバーをドラッグして必要な映像の最後の部分を表示する



❶必要な映像の最後の部分までジョグバーをドラッグ



❷［マーク終了］をクリック

HINT! 必要な部分をもっと細かく表示するには

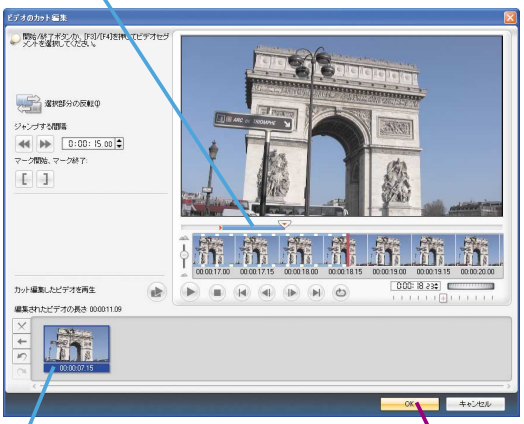
映像のマーク開始やマーク終了位置を細かく指定したいときは、［前のフレームへ］（◀）または、［次のフレームへ］（▶）を使うと便利です。たとえば、手順6の画面で［次のフレームへ］（▶）をクリックすると、映像をコマ送りすることができます。シーンの切り替わり位置などをピッタリ指定したいときなどに便利です。

◆前のフレームへ　◆次のフレームへ

7 指定したマーク開始とマーク終了を確認する

映像の必要な部分が青く表示された

映像の必要な部分を編集できた

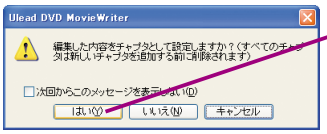


メディアクリップリストに編集した部分が追加された

❶［OK］をクリック

編集した内容をチャプタとして保存するかどうかを確認する画面が表示された

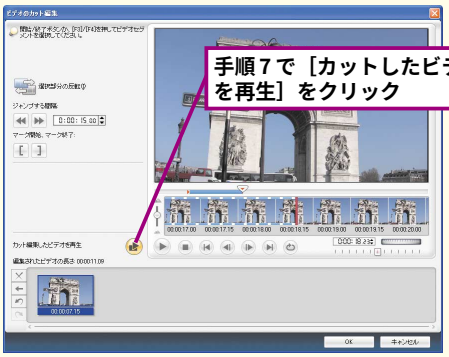
ここではチャプタとして保存する



❷［はい］をクリック

HINT! 指定した部分を再生して確認するには

マーク開始とマーク終了で指定した範囲の映像を確認したいときは、以下のように手順7で［トリムしたビデオだけを再生］をクリックすることで、その範囲だけを再生できます。



手順7で［カットしたビデオを再生］をクリック

HINT!

複数の映像を追加できる

DVD MovieWriter SEでは同時に複数の映像を追加することができます。複数の映像をつなげたり、映像の中から必要なシーンを取り出したりしたいときなどは、10ページの手順1～3を繰り返して複数の映像を追加しましょう。

8 映像の編集が完了した

［ビデオのカット編集］画面が閉じ、手順4に戻った

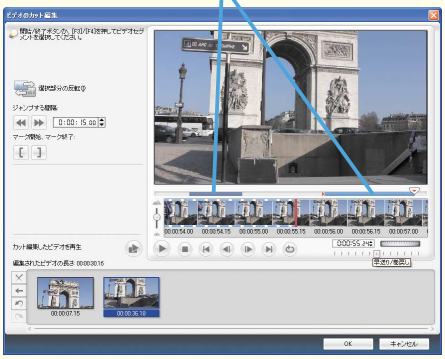
ビデオのカット編集をした映像にはこのアイコンが表示される

HINT!

1つの映像を複数箇所に分割できる

手順5～6の操作を繰り返して、複数の位置をマークすると、1つの映像を複数の箇所に分割することができます。映像の中に必要なシーンがいくつかある場合は、この方法で編集すると良いでしょう。

1つの映像の中でも手順5と6を繰り返すことで、複数の箇所を指定できる



間違った場合は？

間違った位置をマーク開始やマーク終了に設定してしまったときは、正しい映像位置を指定してから、もう一度、マーク開始やマーク終了をクリックして位置を指定し直します。

ショートカットキー	
F3	マーク開始
F4	マーク終了

Point

映像編集のコツは位置の細かな設定

映像をうまく編集するコツは、必要な部分と不要な部分を正確に指定することです。位置を正確に指定すれば、不要なシーンが表示されたり、必要なシーンが途中で切れたりしてしまうことを防止できます。ジョグバーでおおまかな位置を指定し、［前のフレームへ］（◀）や［次のフレームへ］（▶）で、細かく調節するなどして正確に位置を指定すると良いでしょう。なお、このレッスンの設定はあくまでもカットする部分の位置を指定しているだけで、映像ファイル自体からシーンが削除されているわけではありませんので安心してください。

レッスン
5

映像に効果を追加するには

ビデオをエンハンス

映像に効果を追加してみましょう。効果を使うと、映像の最後で自然に暗くなっていくようにしたり、シーンの切り替えをスムーズにしたりすることなどができます。

できるアイビス

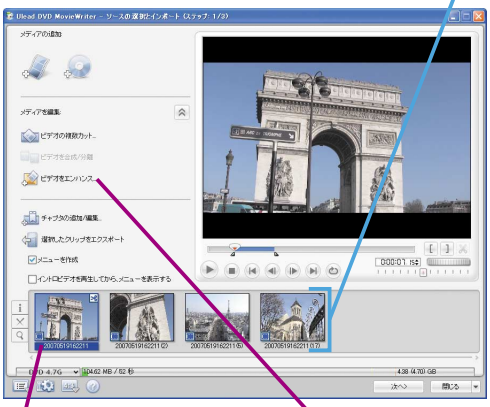
映像にトランジションの効果を追加する

DVD MovieWriter SEでは、映像にトランジションと呼ばれる映像効果を加えたり、テキストを追加したりすることもできます。ここでは例として、映像が自然に消えていくようなトランジション効果を映像の最後に追加してみます。

1 効果を追加する映像を選択する

ここでレッスン❹で編集した映像に効果を追加する

レッスン❷から❹を参考にいくつかの映像を追加しておく



❶レッスン❹で編集した映像をクリック

❷[ビデオをエンハンス]をクリック

HINT!

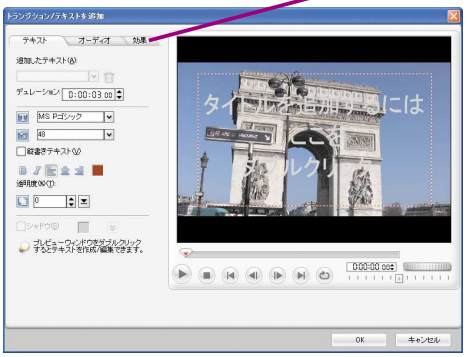
トランジションってなに？

トランジションとは、シーンが切り替わる場所などで、前後の映像をスムーズに切り替わるようにしたり、逆にシーンの切り替えを目立たせたりするなどの演出をするための効果です。代表的なものとしては、次第に映像を暗くするフェードアウトなどの効果があります。

2 [効果] タブを表示する

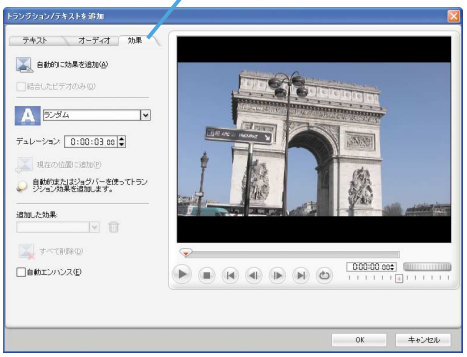
[トランジション/テキストを追加] 画面が表示された

[効果] タブをクリック



3 [効果] タブが表示された

[効果] タブでは、映像にトランジション効果を追加できる



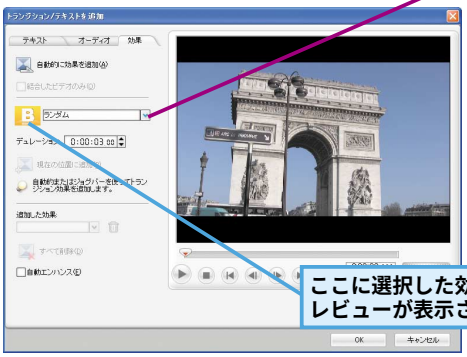
間違った場合は？

間違った効果を設定してしまったときは、手順４で効果の一覧から別の効果を選び直します。

4 追加する効果を選択する

ここでは、映像の最後が黒くフェードアウトするように効果を付ける

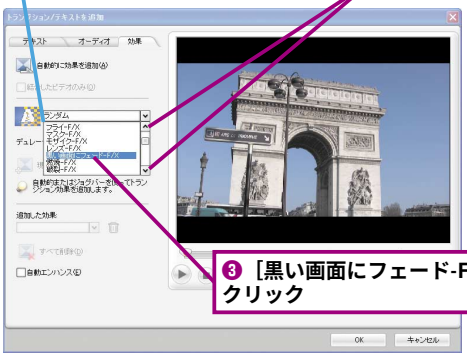
❶［トランジション効果を選択］をクリック



ここに選択した効果のプレビューが表示される

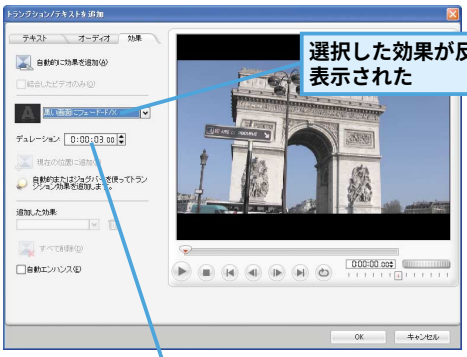
映像に付けられる効果が一覧で表示された

❷ここをクリックし、一覧の続きを表示



❸［黒い画面にフェード-F/X］をクリック

5 効果を選択できた



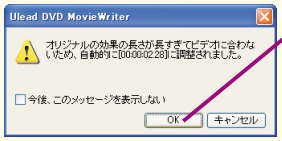
選択した効果が反転して表示された

［デュレーション］は追加した効果が表示される時間を表わしている

HINT!

効果を追加したときにメッセージが表示されたときは

映像の最後に効果を追加した場合などは、映像の最後までの時間と効果の表示に必要な映像の長さがうまく合わない場合があります。このような場合、メッセージが表示され、映像に効果が適用される時間が自動的に調節されます。



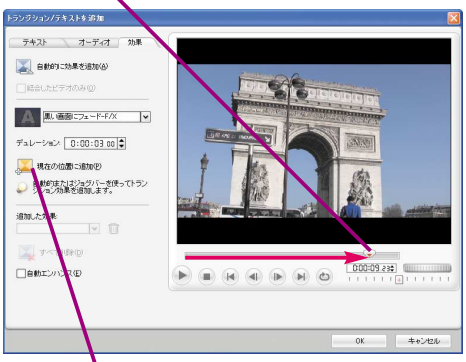
［OK］をクリック

6 映像に効果を追加する

効果を追加する映像の部分を表示する

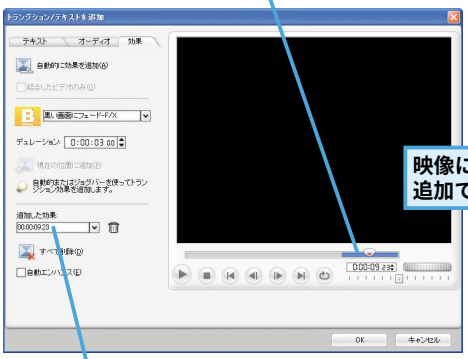
ここでは映像の最後に効果を付ける

❶映像の最後の部分までジョグバーをドラッグ



❷［現在の位置に追加］をクリック

効果を付けた部分が青く反転して表示された



映像に効果を追加できた

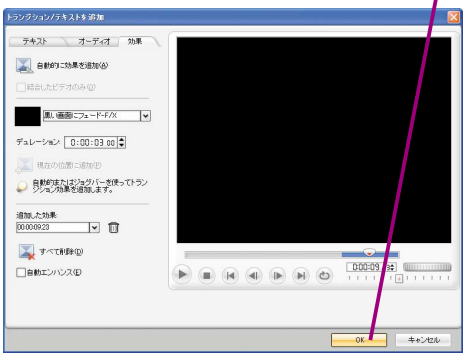
追加した効果はここに表示される

次のページに続く

7 追加した効果を反映する

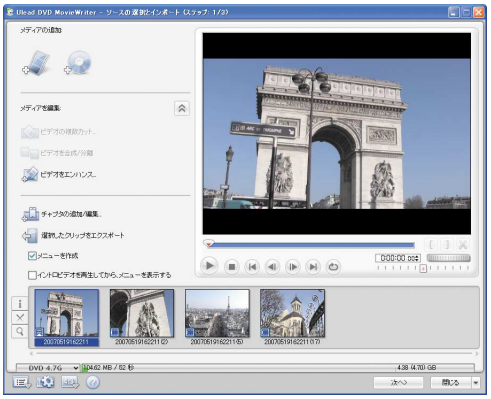
ここまでの手順で追加した効果を反映する

［OK］をクリック



8 効果が反映された

追加した効果が反映され、手順１の画面に戻った



間違った場合は？

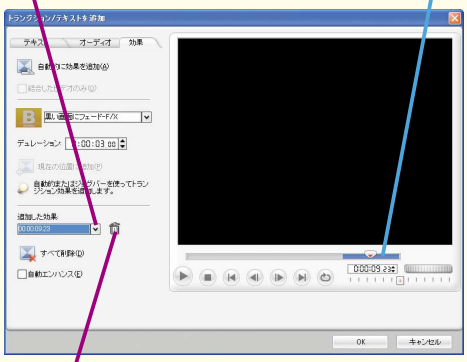
間違った効果を設定してしまったときはHINT!を参考に効果を削除します。

HINT! 追加した効果を削除するには

追加した効果を削除したいときは、以下のように追加した効果を一覧から選び、［選択したトランジション効果をビデオクリップから削除します］をクリックすることで不要な効果を削除できます。

❶［トランジション効果の位置］をクリックし、追加した効果を選択

選択した効果が追加された部分が反転して表示された



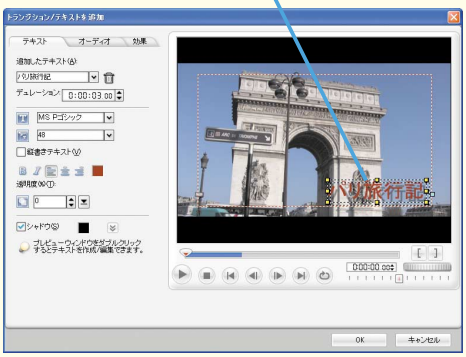
❷［選択したトランジション効果をビデオクリップから削除します。］をクリック

選択したトランジション効果が削除された

HINT! 映像にテキストを追加することもできる

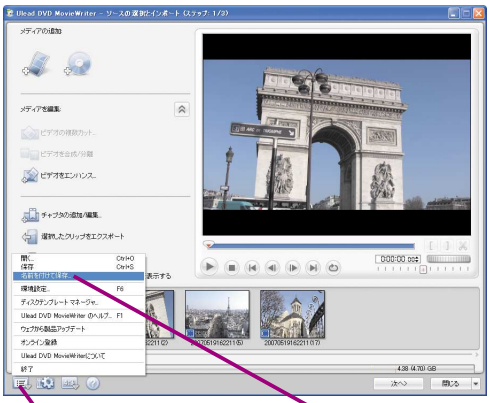
手順７の画面で［テキスト］タブをクリックすると、映像の中にテキストを追加することができます。映像のタイトルを表示したり、シーンを説明するキャプションを追加したり、人物に文字のコメントを付け加えたりするなど、さまざまな用途に活用すると良いでしょう。

［テキスト］タブでは映像にテキストを追加できる



編集内容を保存する

9 ここまでに編集した内容を保存する

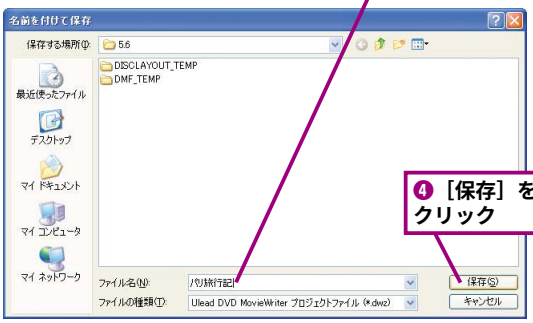


❶［設定とオプション］をクリック

❷［名前を付けて保存］をクリック

［名前を付けて保存］ダイアログボックスが表示された

❸ファイル名を入力



❹［保存］をクリック

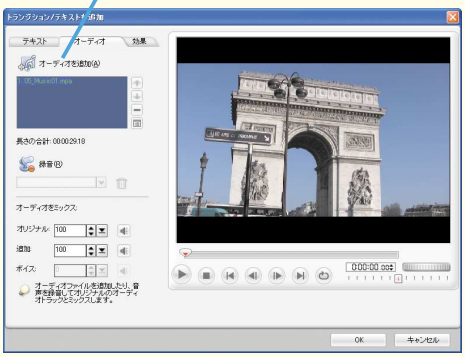
手順８の画面に戻り、編集内容を保存できた

HINT!

BGMを追加するには

映像には効果やテキストだけでなく、音楽も追加することができます。手順7の画面で［オーディオ］タブをクリックし、パソコンに保存されている音楽ファイルなどを指定すると、その音楽がBGMとして映像と一緒に再生されます。シーンに合わせた音楽を選んで、楽しい映像を作成してみましょう。

［オーディオ］タブでは映像にBGMとして音楽ファイルを追加できる



ショートカットキー

space	再生

Point あまり効果を追加しすぎないようにしよう

DVD MovieWriter SEでは、映像の最初や最後、シーンの切り替えに効果を設定したり、映像に文字やBGMを追加したりするような演出がかんたんにできます。しかし、このような演出は、あまり多用しないことが重要です。たとえばシーンの切り替えごとにいろいろな効果が表示されると、見ていて疲れる映像になってしまいます。効果やテキスト、BGMなどは、あくまでもオリジナルの映像を助けるための脇役です。あまり効果を追加しすぎると肝心の映像の雰囲気が損なわれてしまいますので、適度に抑えることが大切です。

レッスン
6

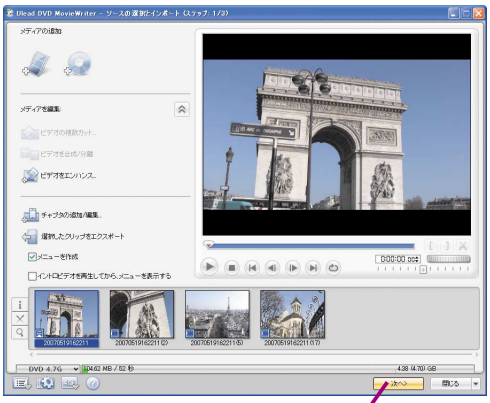
DVDのメニューを作成するには

メニューの編集

編集した映像をDVDに書き込むための準備をしましょう。まずは、DVDとして再生したときに表示されるメニュー画面を作成します。

1 メニューを作成する画面を表示する

DVDを再生したときのメニューを作成する



［次へ］をクリック

2 メニューテンプレートが表示された

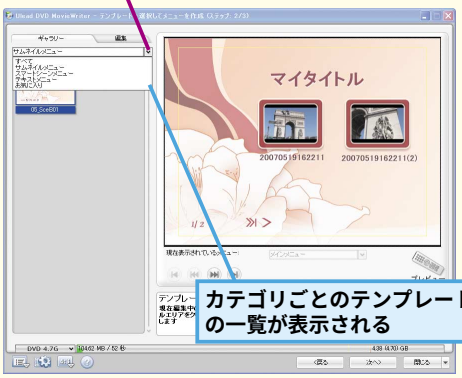
［テンプレートを選択してメニューを作成］画面が表示された

あらかじめ用意されているテンプレートがギャラリータブに表示される

HINT! いろいろなテンプレートが用意されている

DVD MovieWriter SEには、カテゴリごとにいろいろな種類のテンプレートが用意されています。テキストのみが表示されるシンプルなテンプレートや映像のシーンが再生されるテンプレートなどもありますので、好みによって選ぶと良いでしょう。

手順2でここをクリック



カテゴリごとのテンプレートの一覧が表示される

間違った場合は?

手順3でダブルクリックしたときに、テキストの位置などを間違って動かしてしまったときは、メニュー画面を右クリックし、［このページをリセット］を選択すると、最初の位置に戻せます。

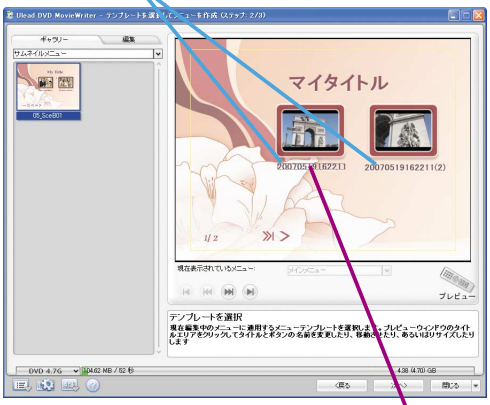
HINT! DVDのフォーマットによって利用できるテンプレートが異なる

手順2で表示されるメニュー画面のデザインなどのテンプレートは、レッスン❸で選択した映像フォーマットによって異なります。本書ではフォーマットにDVDを選んだ場合を例に設定を進めますが、そうでない場合は別のテンプレートを選択して設定を進めましょう。

3 編集するメニューを選択する

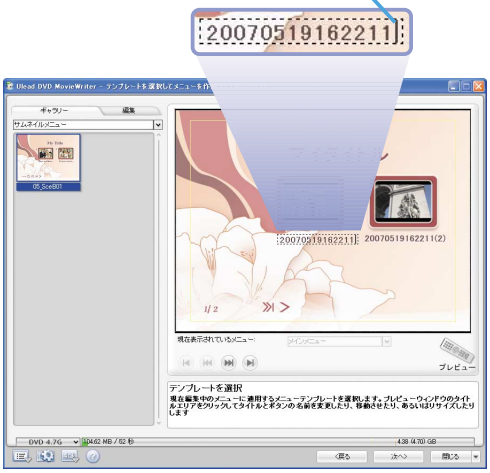
追加した映像がそれぞれメニューとして表示されている

ここでは各メニューのテキストを映像の内容にあったものに編集する



編集したいメニューをダブルクリック

カーソルが表示され、テキストを編集できるようになった



HINT!

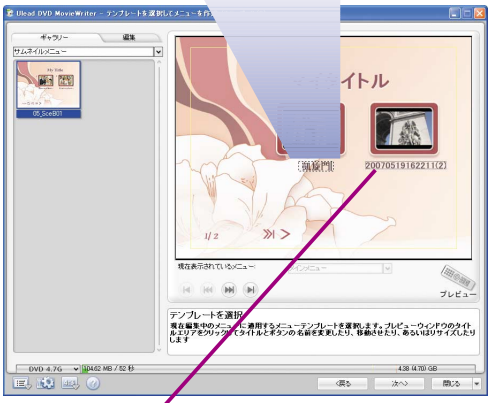
テキストを拡大縮小することもできる

手順4で入力したメニューのテキストは、かんたんに大きくしたり、小さくしたりすることができます。テキストの入力後、［編集］タブをクリックし、テキストの大きさや色などを変更しましょう。

4 テキストを編集する

❶メニューのテキストを入力

入力したテキストを確認しておく



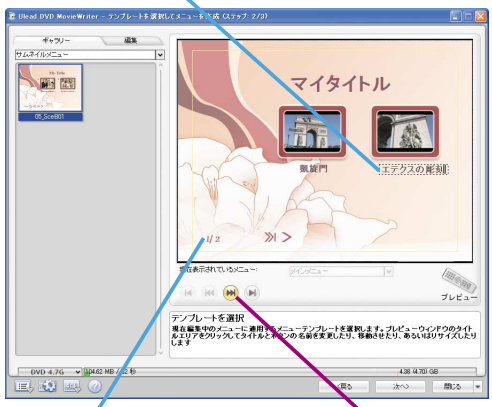
❷次に編集したいメニューをダブルクリック

入力したメニューのテキストが確定された

次のページに続く

5 メニューの続きを表示する

手順2から3までを参考に、ほかのメニューを編集しておく



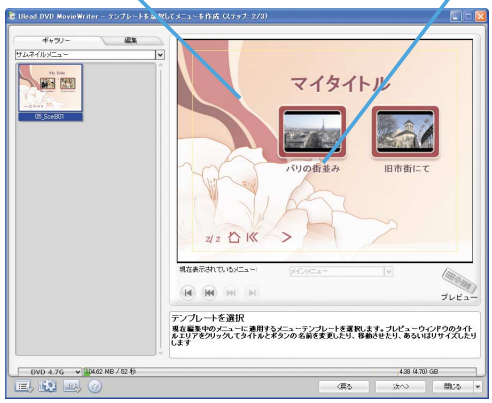
ここに［1/2］と表示されているので、メニューに続きがあることがわかる

［次のメニューへ］をクリック

6 メニューの続きが表示された

メニューの続きが表示された

残りのメニューもここまでの手順を参考に編集しておく



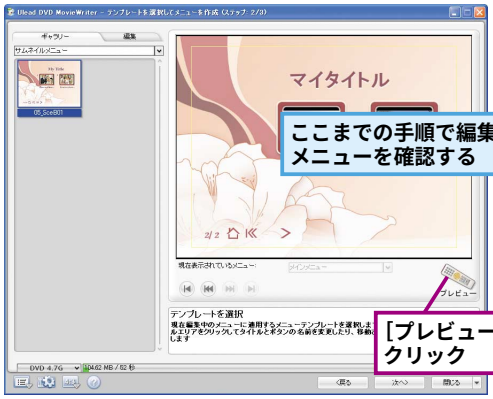
HINT!

メニューに動きを付けることもできる

手順6の画面で［編集］タブをクリック後、［モーションメニュー］を設定すると、背景に動画を設定するなど、動きのあるメニューを作ることもできます。より凝ったメニューにしたいときに活用すると良いでしょう。

編集したメニューを確認する

7 プレビュー画面を表示する



ここまでの手順で編集したメニューを確認する

［プレビュー］をクリック

8 プレビューを開始する

プレビュー画面が表示された

左側に表示された仮想のリモコンを操作してプレビューする

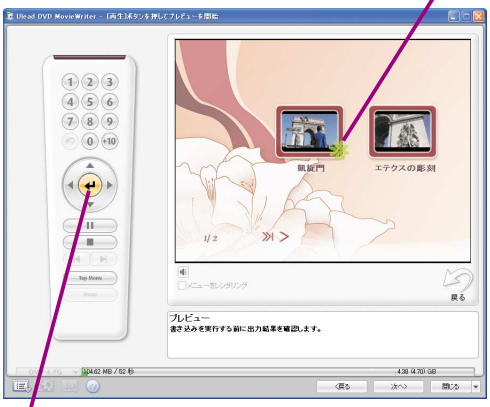
［再生］をクリック

ここにDVDを再生したときのプレビューが表示された

9 映像を再生する

DVDプレーヤーで操作するときと同じ要領で操作する

❶仮想のリモコンを使い、再生する映像を選択



❷［入力］をクリック

選択した映像が再生された

編集したメニューを確認できた

プレビューを停止する

❸［停止］をクリック

HINT!

メニューはマウスでも操作できる

メニューの操作はリモコンだけでなく、マウスでも行うことができます。手順8のプレビュー画面をマウスで操作できるのはもちろんのこと、作成したDVDをパソコンで再生するときなども、マウスを使ってメニューを操作することができます。

10 プレビューを終了する

プレビューが停止した

［戻る］をクリック

プレビューが終了し、手順6の画面に戻った

間違った場合は?

プレビューの確認で思い通りのメニューではなかったときは、プレビュー終了後、もう一度、メニューを編集し直しましょう。

Point 書き込む前によく確認しよう

メニュー画面は、DVDにどんな映像が収録されているのかを表示したり、その中から見たい映像を選んだりするために欠かせない機能です。必要以上に凝ったメニューを作る必要はありませんが、映像のタイトルなどをしっかりと入力し、見やすいDVDのメニューを作成しましょう。なお、作成したメニューは、次のステップでDVDへの書き込みを開始してしまうと、もはや修正することはできません。書き込みを開始する前、つまり、このレッスンの段階で、デザインは問題ないか、タイトルと映像が間違っていないか、誤字や脱字などがないかどうかをしっかりと確認しておくようにしましょう。

完成した映像をDVDに書き込むには

書き込み

思い通りに映像を編集し、メニューも完成したら、いよいよ最後の仕上げをします。作成した映像をDVDに書き込んで完成させましょう。

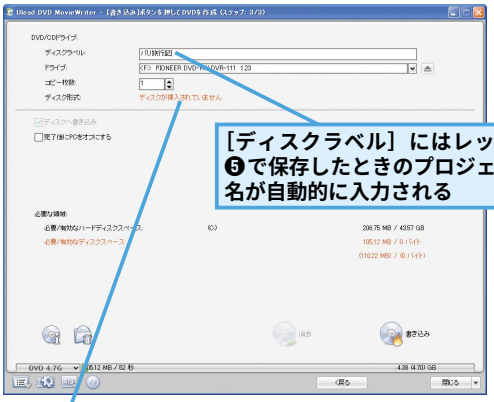
1 DVDの書き込み画面を表示する

ここまでの手順で編集した映像と作成したメニューをDVDビデオとして書き込む

［次へ］をクリック

2 DVDの書き込み画面が表示された

［［書き込み］ボタンを押してDVDを作成］画面が表示された



［ディスクラベル］にはレッスン❺で保存したときのプロジェクト名が自動的に入力される

書き込むためのDVDメディアがセットされていないと、［ディスク形式］に［ディスクが挿入されていません］と表示される

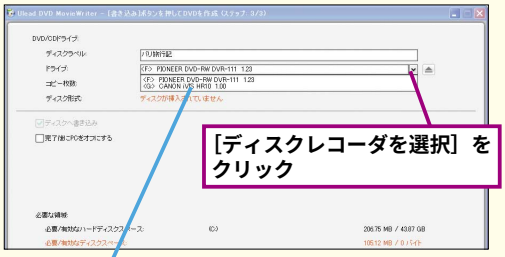
3 ドライブにDVDメディアをセットする

注意 DVD MovieWriter SEでの書き込みに対応しているDVDメディアは8cmまたは12cmのDVD-R（1層、2層）、DVD-RWになります

DVDビデオとして書き込むためのDVDメディアをセット

HINT! 完成した映像をiVISに書き戻せる

完成した映像は、パソコンにセットしたDVDだけでなく、iVISにセットされた8cm DVDに書き戻すこともできます。あらかじめパソコンにiVISを接続しておき、手順4の画面で書き込み先としてiVISを選択しましょう。iVISに映像を書き戻しておけば、たとえば帰省先など、テレビがある場所であればどこでも、iVISをテレビに接続して作成した映像を楽しむことができます。



［ディスクレコーダを選択］をクリック

書き込み先のドライブとして［CANON iVIS HR10］と表示されていれば、書き戻しできる

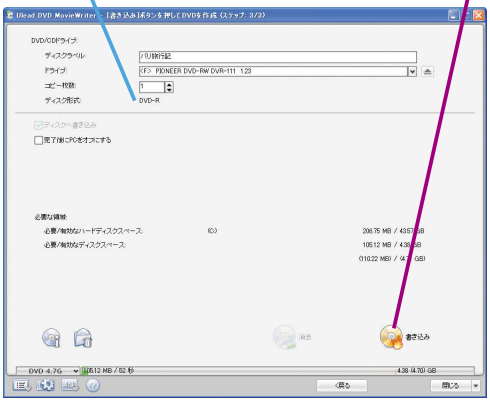
間違った場合は？

手順4で［書き込み］がクリックできないときは、書き込み可能なメディアがドライブにセットされているかどうかを確認しましょう。

4 書き込みを開始する

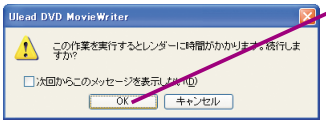
書き込みが可能なDVDメディアがセットされると、ここに表示される

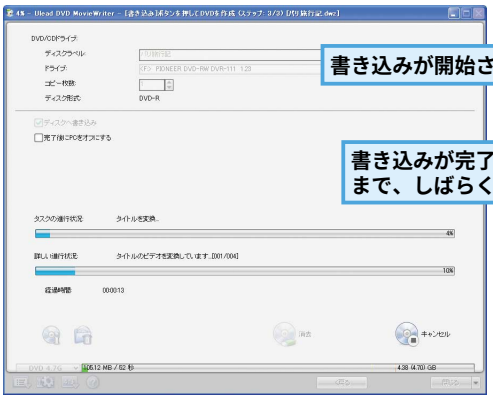
❶［書き込み］をクリック



レンダーに時間がかかるというメッセージが表示される

❷［OK］をクリック





書き込みが開始された

書き込みが完了するまで、しばらく待つ

HINT! レンダーってなに？

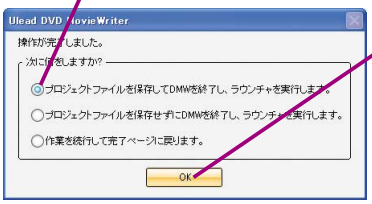
レンダーとは、映像を変換する作業のことです。iVISで撮影した映像がHDモードの場合、DVD-Video形式で書き込むために、映像の形式や画質、サイズなどを変更する必要があります。この作業をレンダーと呼びます。映像によってはレンダーに長い時間がかかる場合もあります。

5 書き込みが完了した

書き込みが完了すると、次に何をするかどうかを選択する画面が表示される

ここではプロジェクトを保存し、DVD Movie Writerを終了する

❶［プロジェクトファイルを保存してDMWを終了し、ラウンチャを実行します］をクリック



❷［OK］をクリック

［DVD MovieWriter SE］のLauncher画面が表示された

Launcher画面を閉じる

❸［終了］をクリック

Launcher画面が閉じた

Point 最後の確認を忘れずに

DVDへの書き込みは映像編集の最終ステップです。書き込みを実行することで、これまでに編集した映像やメニューが、DVDに保存され、完成品として鑑賞することができるようになります。ただし、最終ステップということからもわかるとおり、この作業を実行してしまうと、もはや映像やメニューを修正することはできなくなり、修正したい場合はもう一度DVDへの書き込みをやり直さなければならなくなります。映像や効果、メニュー、そしてフォーマットなど、本当に間違っていないかどうかを良く確認してから実行しましょう。

■著者
清水理史（しみずまさし）shimizu@shimiz.org

1971年東京都出身。外資系企業のシステム管理者を経て、1997年にフリーライターとして独立。雑誌やWeb媒体を中心にOSやネットワーク、ブロードバンド関連の記事を数多く執筆。『BroadBand Watch』にて、ブロードバンド関連の話題を扱う『イニシャルB』を連載中。おもな著書に『できるPRO Windows Server 2003』、『できるインターネット＆メールの「困った！」に答える本 Windows XP SP2 対応』、『できるXbox 360公式ガイド』、『できるパソコンのお引っ越し』、『できるWindows Vista』、『できるGroove2007 Windows Vista対応』（インプレスジャパン）などがある。

できるアイビス iVIS HR10 映像編集編（以下、本書）は、キヤノンマーケティングジャパン株式会社から株式会社インプレスジャパンが委託を受けて制作した特別版です。本書は無償で提供されるものであり、本書の使用または使用不能により生じたお客様の損害に対しキヤノンマーケティングジャパン株式会社ならびに株式会社インプレスジャパンは一切の責任を負いかねます。また、本書に関するお問い合わせはお受けしておりません。あらかじめご了承ください。

できるアイビス
iVIS HR10 映像編集編

編集 ―― できるシリーズ編集部
執筆 ―― 清水理史
協力 ―― キヤノンマーケティングジャパン株式会社
イメージイラスト ―― 廣島 潤
テクニカルイラスト ―― 福地祐子・松原ふみこ
シリーズロゴデザイン ―― 山岡デザイン事務所
カバーデザイン ―― ON Design／中島信浩

Copyright © 2007 Masashi Shimizu and Impress Japan Corporation. All rights reserved.

本書の内容はすべて、著作権法によって保護されています。著者および発行者の許可を得ず、転載、複写、複製等の利用はできません。

2007年8月発行

発行　株式会社インプレスジャパン　An Impress Group Company
〒102-0075　東京都千代田区三番町20

「できるサポート」では、本書に関するお問い合わせにはお答えしておりません。あらかじめご了承ください。

インプレスジャパン

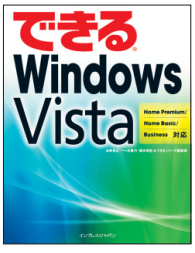
画面で見せるパソコン解説書の元祖

できるシリーズ

シリーズ3000万部突破!

もっと使いこなしたいあなたに

できるWindows Vista



法林岳之・一ヶ谷兼乃・清水理史&できるシリーズ編集部
定価1,344円(本体1,280円+税)

デジカメもIE7も検索も、新しいWindowsがわかる!

商品番号 2350

できる入門 今日からはじめるパソコン Windows Vista対応

NEW シリーズ登場

法林岳之&できるシリーズ編集部
定価1,050円(本体1,000円+税)

「できるシリーズ」よりさらにやさしい超初心者向けのパソコン入門書。

商品番号 2354

できるインターネット&メール Windows Vista対応

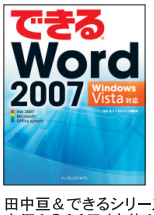
全400ページ!

商品番号 2366

山田祥平&できるシリーズ編集部
定価2,079円(本体1,980円+税)

インターネットとメールを「簡単」「安全」「快適」に楽しめるノウハウが満載!

できるWord 2007 Windows Vista対応

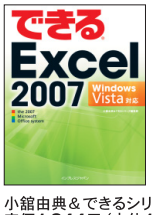


商品番号 2351

田中亘&できるシリーズ編集部
定価1,344円(本体1,280円+税)

企画書もはがきも帳票も、Word 2007の使いこなし方、満載!

できるExcel 2007 Windows Vista対応

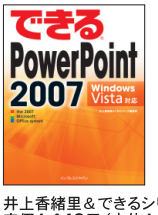


商品番号 2352

小舘由典&できるシリーズ編集部
定価1,344円(本体1,280円+税)

数式もグラフも関数も、Excel 2007が今日から使える! 役に立つ!

できるPowerPoint 2007 Windows Vista対応

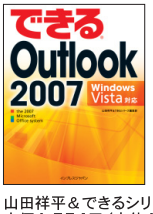


商品番号 2353

井上香緒里&できるシリーズ編集部
定価1,449円(本体1,380円+税)

図解も資料もプレゼンも。パワポを活かすコツ満載!

できるOutlook 2007 Windows Vista対応



商品番号 2359

山田祥平&できるシリーズ編集部
定価1,554円(本体1,480円+税)

メールだけじゃない! 一歩先の使い方がわかる!

パソコンのできる「困った!」に答える本 Windows Vista対応

商品番号 2419

広野忠敏&できるシリーズ編集部
定価1,659円(本体1,580円+税)

Vistaパソコンの「困った!」をQ&A形式で紹介。疑問やトラブルをすっきり解消!

インターネット&メールのできる「困った!」に答える本 Windows Vista対応

商品番号 2417

清水理史&できるシリーズ編集部
定価1,764円(本体1,680円+税)

インターネットの「困った!」をQ&A形式で紹介。ブログやSNSの疑問もすぐに解決!

できるポケット すぐに使えるWindows Vistaの基本がマスターできる本

商品番号 2379

法林岳之・一ヶ谷兼乃・清水理史&できるシリーズ編集部
定価924円(本体880円+税)

インターネット・メール・デジカメ。新しいWindowsの基本がわかる!

携帯電話からも購入できます

①ipc@morder.jpへ空メール(件名、本文なしのメール)を送る。
※ドメイン指定受信を設定していると全ての確認メールが届きません。その場合は必ずmorder.jpを追加してください。
②折り返し届く注文サイトURLにアクセス、手順に従い広告に掲載されている商品番号を入力してください。

インプレスジャパン ダイレクト ショッピング&サービス

できるシリーズもすぐ買える!
版元直販サイト インプレスジャパン ダイレクト
http://direct.ips.co.jp/ij/

読者会員制度と出版関連サービスのご案内
登録カンタン 費用も無料!
CLUB IMPRESS
今すぐアクセス! ▶ club.impress.co.jp

お問い合わせ・ご注文は・・・インプレスカスタマーセンター
Tel: 03-5213-9295 Fax: 03-5275-2443 E-mail: info@impress.co.jp

発行/インプレスジャパン An Impress Group Company 発売/インプレスコミュニケーションズ An Impress Group Company

できるアイビス iVIS HR10 映像編集編 特別版

非売品

画面で見せる入門書の元祖です

できるシリーズは、画面で見せる入門書の元祖です。
見開き完結のレッスンを基本とし、レッスン1から順を追って
進めていくことで、カンタンなことから始められます。
また、レッスンを進めるにしたがって、必要な知識が身につく構成に
なっています。できるシリーズなら、はじめての人でも安心です。

- オールカラーの紙面でわかりやすく解説
- レッスン単位でステップアップ学習できる
- 各レッスンごとに重要ポイントを掲載
- 関連知識をヒント形式で解説

清水理史&できるシリーズ編集部

発行／インプレスジャパン
An Impress Group Company

できるアイビス iVIS HR10 映像編集編
発行／インプレスジャパン
An Impress Group Company